

## レモン哀歌

高村光太郎

そんなにもあなたはレモンを待つてゐた  
かなしく白くあかるい死の床で  
わたしの手からとつた一つのレモンを  
あなたのきれいな歯ががりりと噛んだ  
トパアズいろの香気が立つ  
その数滴の天のものなるレモンの汁は  
ぱつとあなたの意識を正常にした  
あなたの青く澄んだ眼がかすかに笑ふ  
わたしの手を握るあなたの力の健康さよ  
あなたの咽喉に嵐はあるが  
かういふ命の瀬戸ぎはに  
智恵子はもとの智恵子となり  
生涯の愛を一瞬にかたむけた  
それからひと時  
昔山巔でしたやうな深呼吸を一つして  
あなたの機関はそれなり止まつた  
写真の前に挿した桜の花かげに  
すずしく光るレモンを今日も置かう